

名前(国内所属校)：祝迫直子（広島県立高宮高等学校）

現地勤務先：インドネシア共和国 スラウェシ島 南スラウェシ州 ジェネポント県教育局 学校外教育課

H21年7月15日～H21年10月20日の出来事、活動の様子

Selamat(スラマツト)

インドネシア語で、「安寧な、安全な、平和な」という意味です。
いろんな言葉と組み合わせてつかいます。

H21年10月20日作成 第6号

広島県立高宮高等学校 地理歴史・公民科教諭 祝迫直子

青年海外協力隊（JOCV）

H20年度 第1次隊

任国 インドネシア

職種 青少年活動

広島県の皆さん、^{スラマツト シア}Selamat siang!（インドネシア語で「こんにちは」の意味です）。私は広島

県立高宮高等学校の祝迫直子です。平成20年度より現職教員特別参加制度で青年海外協力隊へ参加しています。昨年の6月23日にインドネシアへ渡航して早1年4か月が過ぎました。任地ジェネポント県教育局へ8月5日に赴任し、1年3か月が過ぎたところです。第6号である今回は、「日本文化を伝える活動」についてお話しします。

1 インドネシア社会の中へ

前回、JICAからの要請内容である「識字教育の普及」について説明しました。基本的に要請内容に沿って活動を行う場合、インドネシアの人々の習慣やニーズを知った上で、インドネシアの人々のためによりよい方法を、インドネシアの人々のペースで継続できるように見出していきます。特に青少年活動や村落開発普及員のような、配属先はあっても活動場所が定まっていない（巡回型）隊員の場合、任地の現状を把握するのに最低1年間は費やすのですが、初代隊員の場合、任期のほとんどを人脈づくりとそれから2代目の隊員の活動につなげていくために現地の情報をできる限り収集していくこと、そして今私自身が何ができるのかをアピールしていく営業活動の要素が多くなります。学校隊員は別として、その他の隊員は最初から要請内容の仕事ができることはほとんど皆無に等しく、とにかくインドネシア社会に溶け込んでいくために膨大な時間を費やすのです。

2 日々の自主活動

私自身に何ができるか、それは日本人としての私をそのままアピールすることにつながります。任地ジェネポント県へ来て、まず最初にできたことは、夕方の空手教室でした。そして、その参加者の中から日本語も勉強したいというメンバーに少しずつ日本語を教えるようになりました。この2つの自主活動は日常化し、おそらく任期終了まで続けていくこととなります。また、ジェネポント



ト県は毎週金曜日の朝が全校体育の時間となっています。ですので、家の近くのロマガ小学校で体づくりの一環として空手を導入してもらい、月に2回ほど教えに行っています。

3 協力して日本文化を伝える

昨年11月、南スラウェシ州の各県に配属されている隊員が協力して、先輩隊員の配属先であるマカッサル市アクパル観光専門学校で日本文化祭を実行しました。「日本料理」「日本の伝統的な遊び」「書道」「浴衣祭」「日本の歌」そして私は「空手」を担当しました。普段の活動は一人で行うことが多いのですが、各隊員がそれぞれの得意分野を活かして、インドネシアの人々に日本の文化を伝える大きな機会を得られました。今年も北スラウェシのマナドで日本文化祭を行います。



(写真左：空手の基本稽古の見本を実施，写真中央：専門学校の学生さんと先生方も一緒に稽古に参加，写真右：南スラウェシ州の青年海外協力隊，日本文化祭実行メンバーが浴衣姿で記念撮影)

私の任地ジェネポント県でも日本文化を紹介する時があります。それは、遠く日本(愛知・大阪・広島・山口)からスラウェシ島まで、私たち青年海外協力隊の隊員に会いに来てくださった時と、他国カンボジア・ベトナムから同期隊員が任国外旅行で来てくれた時です。私たち隊員以外の日本人の素の姿にふれる時、インドネシアの人々は日本人を強く意識するのです。小・中学校、パケットと呼ばれる中途退学者の再教育施設を訪問し交流しました。また、あらかじめ日本からインドネシアの人々との交流のために準備をしてきてくださった学校の先生もいらっしゃいました。家庭科の先生が日本の紹介のパワーポイントや昔話「かぐや姫」の紙芝居を英語版で持ってきてくださったり(再度インドネシア語へ翻訳は必要)、音楽の先生がオカリナやたて笛でインドネシアでよく歌われている曲をあらかじめ練習してきてくださったり、日本の伝統的な遊び道具を持ってきてくださいました。各場所で交流できる時間は、長くても1時間くらいです。ですが、インドネシアの子どもたちは日本の文化を伝えにきてくれた数名の日本人をずっと心にとどめているのです。



(写真左：日本とインドネシアの位置関係を日本地図・インドネシア地図・世界地図を用いて説明した後、折鶴を紹介，写真中央：日本の音楽の先生と協力して日本文化を紹介した後、子どもたちに将来の夢を書いてもらって記念撮影，写真右：カンボジア・ベトナムからの同期隊員とともに、マカッサルのハサヌディン空港の前にて)

多くの時間と経費をかけて、交通の便のよくない任地スラウェシ島ジェネポント県までお越しくくださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。